



科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学科	自動車整備科
構造及び性能(シャシ)	講義		2	2	学年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教員	吉田 茂生
			40	38	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	自動車シャシの基礎、基本に関する構造について学習することで探究心を高め基礎知識の習得、技術の向上に役立てる。
使用教科書・副教材等	三級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会) 二級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会) 各章及びレッスンに応じたプリント(教材)
教員実務経験	自動車ディーラにてサービススタッフとして、一般修理、点検整備などを経験。

2 追試験基準

前期	定期考查 50点未満
後期	定期考查 50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考查	60 %	仮評価	%
	学習に対する取り組み	30 %		%
	レポート、提出物	10 %		%
		%		%

5 学習計画及び評価方法

学習内容		月	学習のねらい	考査範囲	
第一学年	前期	① 総論 ② 動力伝達装置 *クラッチ *トランス・ミッションM/T *プロペラ・シャフト *ファイナル・ギヤ *ドライブ・シャフト *タイヤ及びホイール ③ ステアリング装置	4	自動車概要を説明し、自動車の基本構造を理解する	①～②
		5	クラッチの役目や名称と構造の理解を深める トランスミッションの役目、名称と構造の理解を深める		
		6	プロペラシャフト、ディファレンシャル、ドライブシャフトの役目、名称、構造への理解を深める。		
		7	動力伝達の流れを再度確認し、全体の流れを理解し、知識を深める。		
		8	タイヤ&ホイールの概要、種類、名称、構造の理解を深める。 ステアリング装置の重要性と車両との関係性を深める。		
		10	スプリング、アブソーバ、スタビライザの概要、名称と種類、構造の理解を深める。		
		11	フロント及びリヤサスペンション、ホイール・アライメント概要、種類と名称、構造の理解を深める。		
		12	ブレーキ概要、油圧式ブレーキ、安全装置、制動倍力装置、パーキング・ブレーキ、ABS、TCS等の概要、種類と名称、構造の理解を深める。		
	後期	1	ブレーキ装置 *油圧式ブレーキ *安全装置、ABS 制動倍力装置、etc	③～④	
		2	総合確認		
		3	シミュレータなどを利用し、動力の流れ、タイヤの違い、サスペンション、ブレーキ装置の違いと変化などを感じてもらう。		

6 特記事項

基本パワーポイントにて動画、シミュレータを駆使し原理、作動を理解し必要に応じて単品部品等を用意し現物確認しながら教科書、自動車整備士過去問との関連を含め理解させる。

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後前期	後後期	学科	自動車整備科
構造及び性能(エンジン)	講義	3	2	1	学年	一年次	
		年単位時間	前期	後期	教員	眞境名 元行	
		60		29	実務経験	有	

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	エンジンの基礎と新機構の構造や作動についての基本に関する事を理解すると同時に、特にガソリンエンジンを中心に実際に活用できる能力を習得する。
使用教科書・副教材等	三級自動車ガソリン・エンジン(日本自動車整備振興会連合会) 二級ガソリン自動車 エンジン編(日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	自動車ディーラーでサービスエンジニアとして一般整備、点検整備、自動車検査員としての経験

2 追試験基準

前期	定期考查 50点未満
後期	定期考查 50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考查	70 %	仮評価	%
	学習の取り組み	30 %		%
		%		%
		%		%
		%		%

5 学習計画及び評価方法

学習内容		月	学習のねらい	考查範囲
第一 学期	① エンジンの基礎 ② ガソリン・エンジン本体 ③ 润滑装置 ④ 冷却装置 ⑤ 点火装置	4	ガソリンエンジンの概要、基礎を学習することで導入のきっかけを作り、エンジン本体を学習することで今後の原動機の構造の複雑な機構に対応できる様にする。	①～⑤
		5		
		6	潤滑装置の概要、名称と構造及び作動の理解を深める。	
		7	冷却装置の概要、構造、作動について理解を深める。	
		8	点火装置の概要、構造、作動について理解を深める。	
		10	吸排気装置の概要、構造、作動について理解を深める。 燃料装置の概要 構造、機能について理解を深める。	
		11	電子制御装置の燃料噴射制御、点火時期制御、アイドル回転速度制御、スロットルバルブ開度制御及びエンジン電装品などの制御の概要、構造、作動について理解を深める。	
		12	可変バルブ機構の概要、構造、作動について理解を深める。	
第二 学期	⑥ 吸排気装置 ⑦ 燃料装置 ⑧ 電子制御装置 ⑨ 可変バルブ機構 ⑩ 排出ガス	1	可変バルブ機構の概要、構造、作動について理解を深める。	⑥～⑩
		2	排出ガスの種類、発生原理、低減方法について理解を深める。	
		3		

6 特記事項

--

科 目 名	授業方法	週単位時間	前 期	後 期	学 科	自動車整備科
			2	2	学 年	一年次
自動車力学	講 義	年単位時間	前 期	後 期	教 員	清水 耕児
			40	38	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	自動車の軸荷重、速度と加速度、圧力と応力、仕事率などの基礎知識や応用力等、国家整備士試験に対応する学力を身につける。
使用教科書・副教材等	各章及びレッスンに応じたプリント(教材) 国家整備士試験過去問(副教材)
教員実務経験	自動車ディーラーでサービスエンジニアとして一般整備、点検整備、自動車検査員としての経験

2 追試験基準

前期	定期考查 50点未満
後期	定期考查 50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考查	70 %	仮評価	%
	学習への取り組み	30 %		%
		%		%
		%		%
		%		%

5 学習計画及び評価方法

学習内 容		月	学習のねらい	考査範囲	
第一 期	前	① 第1章 ② 第2章 レッスン1(トルク) ③ 第2章 レッスン2(ばね定数) ④ 第2章 レッスン6(モーメント) ⑤ 第2章 レッスン9(ギヤ機構) ⑥ 第2章 レッスン11(圧縮比) ⑦ 第2章 レッスン13(電気)	4 ・ 5	SI単位を理解し、単位の換算等の応用力を習得。	①～⑦
		6	単位の換算を応用とし、「速度」、「面積」、「体積」等の基礎的な問題に対応する力の習得。		
		7	国家3級整備士試験レベル(②～③)に対応できる学力の習得。		
		8	国家3級整備士試験レベル(④～⑦)に対応できる学力の習得。		
	学 年 期	⑧ 第2章 レッスン3(圧力) ⑨ 第2章 レッスン5(走行性能) ⑩ 第2章 レッスン6(モーメント) ⑪ 第2章 レッスン7(荷重割合1) ⑫ 第2章 レッスン8(荷重割合2) ⑬ 第2章 レッスン12 (エンジン回転速度) ⑭ 第2章 レッスン14(電気) ⑮ 2級過去問 まとめ	10	国家2級整備士試験レベル(⑧～⑩)に対応できる学力の習得。	⑧～⑯
		11 ・ 12	国家2級整備士試験レベル(⑪～⑫)に対応できる学力の習得。		
		1	国家2級整備士試験レベル(⑬～⑭)に対応できる学力の習得。		
		2	国家2級整備士試験レベル(⑮)に対応できる学力の習得。		
		3			

6 特記事項

計算問題を解く技巧のみではなく、機械的計算等は必要に応じてパワーポイント動画、シュミレータを駆使し作動、原理及び整備士試験との関連性を含め理解度を高めていく。

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後前期	後後期	学科	自動車整備科
電気電子理論	講義		2	1	2	学年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教員	清水 耕児	
			40	28	実務経験	有	

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	近年自動車の電子化に伴い、その電気・電子の基礎及びハイブリッドや電気自動車の概要を学習し技術の向上へ役立てる。
使用教科書・副教材等	電装品構造(全国自動車整備専門学校協会) 二級ガソリン・ジーゼル自動車エンジン編(日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	自動車ディーラーでサービスエンジニアとして一般整備、点検整備、自動車検査員としての経験

2 追試験基準

前期	定期考查 50点未満
後期	定期考查 50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考查	70 %	仮評価	%
	学習への取り組み	30 %		%
		%		%
		%		%
		%		%

5 学習計画及び評価方法

学習内容		月	学習のねらい		考查範囲
第一 学年 期	前 期	①電気の基礎	4	電気とは何かをしっかりと理解させ、今後の実習や授業をスムーズに学習できる基礎を作る。	①～⑤
		②計測	5		
		③磁気の基礎	6		
		④半導体	7	サーチットテスタの構造や電圧、電流、抵抗の計測方法について学習し理解させる。	
		⑤モータと発電機	8	モータや発電機の原理を基礎から理解させる。	
	後 期	⑥バッテリ	10	バッテリの目的、構成部品の構造、機能について理解させる。	⑥～⑩
		⑦点火装置・予熱装置	11	点火装置・予熱装置の目的、構成部品の構造、機能について理解させる。	
		⑧始動装置	12	始動装置の目的、構成部品の構造、機能について理解させる。リダクション・スタータの減速機構、緩衝装置、マグネットスイッチ、エンジンの始動特性、スタータの特性について理解させる。	
		⑨充電装置	1	充電装置の目的、構成部品の構造、機能について理解させる。オルタネータの三相交流、整流、ボルテージ・レギュレータの働き及び充電制御機能について理解させる。	
		⑩灯火装置	2 ・ 3	灯火装置の目的、構成部品の構造、機能について理解させる。	

6 特記事項

パワーポイントにて原理、作動を理解させる。必要に応じて構成部品を用意し、現物確認をしながら教科書と併せて理解度を高める。自動車整備士過去問題との関連を含め理解させる。

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学科	自動車整備科
燃料、潤滑剤油脂	講義		1	0	学年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教員	吉田 茂生
			20	0	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	燃料、潤滑剤、作動油などの性質、種類などを学習し、自動車への興味と理解を深める。また、危険物(乙種第4類)資格取得を目指す。
使用教科書・副教材等	内燃機関、燃料・油脂(全国自動車大学校 整備専門学校協会) 自動車工学(一般社団法人 日本自動車整備振興会連合会) 乙4類危険物取扱者受験教科書(向学院)
教員実務経験	自動車ディーラーでサービスエンジニアとして一般整備、点検整備、などを経験

2 追試験基準

前期	定期考查 50点未満
後期	

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期	定期考查	60 %	仮評価	%
	学習への取り組み	40 %		%
		%		%
		%		%
		%		%

5 学習計画及び評価方法

学習内容		月	学習のねらい	考查範囲
第一 学期	①燃料 ②潤滑剤、潤滑 ③作動油、その他 ④熱機関概要 ⑤燃焼 ⑥消火、法令	4	燃料の概要、精製法、種類などを理解し、性状を学習する。	①～⑥
		5	潤滑剤の性状、種類を学習し、必要な性質を理解する。 作動油などその他の性質を理解し、違いによる取り扱い方法を学ぶ。	
		6	内燃機関概要、燃焼を学習し、理解を深める。	
		7	危険物試験に絡めた、用語などを学習し、理解を深める。	
		8	危険物試験に絡めた、消火注意点、法令などを理解し、資格に挑戦する	
		10		
第二 学期		11		
		12		
		1		
		2		
		3		

6 特記事項

--



科 目 名	授業方法	週単位時間	前 期	後 期	学 科	自動車整備科	
自動車材料	講 義		0	1	学 年	一年次	
			年単位時間	前 期	後 期	教 員	吉田 茂生
			0	19	実務経験	有	

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	一つ一つの部品の材料の概要、種類、特色、名称等の基本を理解する事で、部品の集合体である自動車での、使用例など学習し、シャシ・エンジン・ボディなどの興味と理解を深める。
使用教科書・副教材等	自動車材料(全国自動車大学校、整備専門学校協会) 自動車工学(一般社団法人 日本自動車整備振興連合会)
教員実務経験	自動車ディーラにてサービススタッフとして一般整備、点検整備、などを経験。

2 追試験基準

前 期	
後 期	定期考查 50点未満

3 補習授業基準

前 期	
後 期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

後 期	定期考查	70 %	仮評価	%
	学習への取り組み	30 %		%
		%		%
		%		%
		%		%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第一 学 年	前	4		①～⑥
		5		
		6		
		7		
		8		
	後	10	金属材料の性質と試験法、検査法の概要を学習する。	
		11	鉄鋼材料の種類や用途、性質を学習し、理解を深める。	
		12	非鉄金属の種類、性質、焼結合金の概要を学習する。	
		1	非金属概要、種類、自動車への使用例など学習し、理解を深める。	
		2 ・ 3	自動車構造を学習し、部位による材料の違いなど理解を深める。	

6 特記事項

教室に単品部品などを用意して、現物を確認することで理解を深める。

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学科	自動車整備科
製図	講義	1	0	学年	一年次	
		年単位時間	前期	後期	教員	吉田 茂生
		20	0	実務経験	有	

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	三角定規、コンパス等用具を正しく使用できる。 三角法による投影を理解して、点、直線、平面を表現できる。 正投影図及び等角図が描ける。
使用教科書・副教材等	基礎製図 練習ノート(実教出版)
教員実務経験	自動車ディーラにてサービススタッフとして一般整備、点検整備、などを経験。

2 追試験基準

前期	提出課題の50%未満は追加課題

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期	提出物(練習ノート)	60 %	仮評価	%
	学習への取り組み	20 %		%
	定期考査	20 %		%
		%		%

5 学習計画及び評価方法

学習内容		月	学習のねらい		考査範囲	
第一 期 前	①練習ノート 利用方法 ②練習ノート 解説1 文字と記号 ③練習ノート 解説2 線 ④練習ノート 解説3 投影図 寸法記入 ⑤練習ノート 解説4、5 製作図 ⑥応用課題	4	製図の概要について理解を深める。 製図用具の使い方を覚える。		⑥	
		5	図面の大きさ及び様式について理解を深める。 製図で使用される文字と記号について理解を深める。			
		6	線の種類と用法について理解を深める。			
		7	投影法とその種類の理解を深める。			
		8	製作図を描けるようになり、線の意味、記号の意味を理解する。			
		10				
第一 期 後		11				
		12				
		1				
		2				
		3				

6 特記事項

--

科 目 名	授業方法	週単位時間	前	後	前	後	後	学	科	自動車整備科
			0	1	2	学	年	一年次		
		年単位時間	前	後	期	教	員	真境名 元行		
エンジン整備法	講義		0		28	実務経験		有		

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	エンジンの整備方法を理論的に学習し、測定・検査機器の使用方法を理解することで安全で確実な整備ができる知識を習得している。
使用教科書・副教材等	三級自動車ガソリン・エンジン(日本自動車整備振興会連合会) 二級ガソリン自動車 エンジン編(日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	自動車ディーラーでサービスエンジニアとして一般整備、点検整備、自動車検査員としての経験

2 追試験基準

前期	
後期	定期考查 50点未満

3 補習授業基準

前期	
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

後期	定期考查	70 %	仮評価	%
	学習への取り組み	30 %		%
		%		%
		%		%
		%		%

5 学習計画及び評価方法

学習内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第一学年	前	4		①～⑧
		5		
		6		
		7		
		8		
		10	予防整備・故障整備の理解を深める。 エンジン本体の点検・整備の知識を習得する。	
		11	潤滑装置の点検・整備の知識を習得する。 冷却装置の点検・整備の知識を習得する。 燃料装置の点検・整備の知識を習得する。	
		12	吸排気装置の点検・整備の知識を習得する。	
	後	1 ・ 2 ・ 3	点火装置の点検・整備の知識を習得する。 電子制御装置の点検・整備の知識を習得する。	

6 特記事項

単品部品教室に用意し現物を確認、関連の実習を絡めて理解を深める

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後前期	後後期	学科	自動車整備科
シャシ整備法	講義		0	2	1	学年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教員	吉田 茂生	
			0	29	実務経験	有	

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	シャシの点検・整備に当たり、その構造・機能を理解し、適切な工具や計器を使用して正しい作業手順を習得することで技術の向上に役立てる
使用教科書・副教材等	三級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会) 二級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	自動車ディーラーにてサービススタッフとして点検整備、一般整備などを経験

2 追試験基準

前期	
後期	定期考查 50点未満

3 補習授業基準

前期	
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

後期	定期考查	60 %	仮評価	%
	学習への取り組み	30 %		%
	レポート、提出物	10 %		%
		%		%

5 学習計画及び評価方法

学習内容		月	学習のねらい	考查範囲
第一学年	前	4		①～⑦
		5		
		6		
		7		
		8		
		10	動力伝達装置の点検・修正・分解組み付けを理解し学習する。	
		11	スプリング、ショックアブソーバ、ステアリング装置の点検・修正・分解組み付けを理解し学習する。	
		12	タイヤの編摩耗などからアライメントの修正方法などを理解する。	
	後	1	ブレーキ本体や各付属部品の点検・修正・分解組み付けを理解し学習する。	
		2	定期的な保守管理を含めた点検・整備方法について理解し学習する。	
		3		

6 特記事項

単品部品を用意し、現物を確認しさらに、レポートや教科書との関連の部分を絡めて理解を深める。

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学科	自動車整備科
電装整備法	講義	年単位時間	0	1	学年	一年次
			前期	後期	教員	清水 耕児
			0	19	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	電装品の点検整備方法を理論的に学習し、測定・検査機器の使用方法を理解することで安全で確実な故障探究と整備ができる知識を習得する。
使用教科書・副教材等	二級ガソリン・ジーゼル自動車エンジン編(日本自動車整備振興会連合会) 二級・三級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	自動車ディーラーでサービスエンジニアとして一般整備、点検整備、自動車検査員としての経験

2 追試験基準

前期	
後期	定期考查 50点未満

3 補習授業基準

前期	
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

後期	定期考查	70 %	仮評価	%
	学習への取り組み	30 %		%
		%		%
		%		%
		%		%

5 学習計画及び評価方法

学習内容		月	学習のねらい	考查範囲
第一学年	前	4		①～⑤
		5		
		6		
		7		
		8		
		10	電解液の液量の調整及び比重の測定方法を理解させる。 充電及び充電方法の種類を学習し、充電中の電圧と比重の変化及び充電方法での注意事項を理解させる。	
		11	イグニッション・コイル、スパーク・プラグの点検方法について理解させる。グロー・プラグの点検方法について理解させる。	
		12	マグネット・スイッチ、スタータ本体の点検方法と性能テストについて理解させる。	
	後	1	オルタネータの点検及び性能試験を理解させる。	
		2	灯火装置の故障の原因と、配線の点検について理解させる。 ヘッド・ランプの点検・調整について理解させる。	
		3	各種ランプの作動と点検を理解させる。	

6 特記事項

パワーポイント動画にて整備機器の使用方法を理解させる。必要に応じて単品部品とテスタを用意し、実際に現物を点検しながら教科書と併せて理解度を高める。自動車整備士過去問題との関連を含め理解させる。

科 目 名	授業方法	週単位時間	前 期	後 期	学 科	自動車整備科
			1	1	学 年	一年次
機器取り扱い	講 義	年単位時間	前 期	後 期	教 員	清水 耕児
			20	19	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	整備作業時の正しい工具の選定及び、正しい工具の使い方を習得させる。更に自動車の点検、調整、測定、検査用機器、等の取り扱いを習得させ、自動車の整備、故障探究、自動車の検査時の良否の判定に活用させる。
使用教科書・副教材等	自動車整備工具・機器(全国自動車大学校、整備専門学校協会)
教員実務経験	自動車ディーラーでサービスエンジニアとして一般整備、点検整備、自動車検査員としての経験

2 追試験基準

前期	定期考查 50点未満
後期	定期考查 50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期 考査	70 %	% % % %
	学習への取り組み	30 %	
		%	
		%	
		%	

5 学習計画及び評価方法

学習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第一 学 年 期	前	① 概要	4 概要を踏まえ、必要性と安全性について知る。	①～⑤
		② 工具	5 基本的な工具の名前と使い方を習得することによって作業性の視野を広げる。	
		③ 作業用機器	6 電気、油圧、エア・ツールの取り扱い方法を熟知し、その危険性と安全な作業方法を習得する。	
		④ エンジン点検・調整機器	7 エンジンに対しての故障診断、計測、修正で用いられる機器について習得する。	
		⑤ 電気装置・調整機器	8 電気装置に対しての故障診断、計測、修正で用いられる機器について習得する。	
	後	⑥ 車両点検・調整機器	10 車両(シャシ)に対して故障診断、計測、修正で用いられる機器について習得する。	⑥～⑨
		⑦ 自動車検査用機器	11 主に検査法を元に行われる車両を検査する機器について習得する。	
		⑧ 車体整備用機器	12	
		⑨ その他機器	1 主に板金整備等に用いられる車体を修復する機器について習得する。	
			2 その他機器について習得する。 3	

6 特記事項

--



科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学科	自動車整備科
安全衛生	講義		1	0	学年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教員	吉田 茂生
			20	0	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	労働災害に対する認識を深め、災害防止と、自らの安全に対する習慣を習得させる。また、危険物の対処法、消火法などを理解することで、危険物の資格に挑戦する。
使用教科書・副教材等	安全衛生(能力開発機構、職業能力開発総合大学校) 乙種4類 危険物取扱者受験 教科書(株式会社 向学院)
教員実務経験	自動車ディーラーでサービスエンジニアとして一般整備、点検整備、などを経験

2 追試験基準

前期	定期考查 50点未満
後期	

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期	定期考查	70 %	仮評価	%
	学習への取り組み	30 %		
		%		
		%		
		%		

5 学習計画及び評価方法

学習内容		月	学習のねらい	考查範囲	
第一 学期	前	①第1章 総説 安全衛生の意義、取り組み ②第2章 災害の原因と傾向 ③第3章 安全一般 ④第4章 手工具の取り扱いに関する安全管理 ⑤第5章 動力機械に関する安全管理 ⑥危険物の性状、消火、取扱	4	安全衛生に対する心構えを考え、実践での大切さを理解する。 4Sに対する意識付けと工具類の安全管理	①～⑥
		5	災害事例からの傾向を確認し、工具の取り扱い、保守管理などを学習し、考える。		
		6	動力機械の取り扱い、保守管理、修理などの取り扱いを学習する。		
		7	実際にある危険物に対する取扱方法や、保守管理方法などを学習し、理解を深める。		
		8	災害時などの消火方法や、施設の安全構造を学習する。 危険物に対する知識を深め、資格へ挑戦する。		
		10			
第二 学期	後	11			
		12			
		1			
		2			
		3			

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学科	自動車整備科
測定・電装実習	実習	年単位時間	3	3	学年	一年次
		前期	後期	教員	清水・吉田	
		60	57	実務経験	有	

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	学科で学習した内容を実習にて実物を見て、実際に作業することにより理解を深める。作業要領を習得し実践に役立つ技術を習得する。
使用教科書・副教材等	二級・三級ガソリン自動車 エンジン編(日本自動車整備振興会連合会) 二級・三級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	自動車ディーラーでサービスエンジニアとして一般整備、点検整備、自動車検査員としての経験

2 追試験基準

前期	定期考查 50点未満
後期	定期考查 50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考查	70 %	仮評価	%
	学習への取り組み	30 %		%
		%		%
		%		%
		%		%

5 学習計画及び評価方法

学習内容		月	学習のねらい	考查範囲	
第一 学期	①測定基礎実習	4	①エンジンを分解して測定する意味と要領を理解させる。 エンジン内部部品の各部寸法等を測定する機器の取扱い 各ゲージやメーターの名称、測定要領を習得する。	①	
		5			
		6			
		7			
		8			
		10	②プレッドボードを使用し抵抗やコンデンサを組み合わせて発振回路を作成し、電装部品の結線や発振回路を理解する。 ③オルタネータとスタータ・モータの分解、組付け要領を習得する。オルタネータの整流回路を理解する。スタータ・モータの構造や電流の特性を理解する。 ④バッテリの構造と機能を理解し充電器の使用方法を習得する。 ⑤ヘッドライトの回路を結線し配線図の見方、断線箇所を特定することを習得する。		
		11			
		12			
		1			
		2			
第二 学期	②基本電子 ③充電・始動装置 ④電装品試験 ⑤電気回路			②～⑤	

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間 年単位時間	前期	後期	学科	自動車整備科
基礎実習	実習		14	14	学年	一年次
		前期	後期	教員	清水・吉田	
		280	301	実務経験	有	

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	学科で学習した内容を実習にて実物を見て、実際に作業することにより理解を深める。 作業要領を習得し実践に役立つ技術を習得する。
使用教科書・副教材等	三級自動車ガソリン・エンジン(日本自動車整備振興会連合会) 三級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	自動車ディーラーでサービスエンジニアとして一般整備、点検・車検整備、自動車検査員の経験

2 追試験基準

前期	実技試験 50%未満
後期	実技試験 50%未満

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	実技試験	70 %	仮評価	%
	学習への取り組み	30 %		%
		%		%
		%		%
		%		%

5 学習計画及び評価方法

学習内容		月	学習のねらい	考查範囲
第一 学期	① 工作基本実習 ② 機械操作実習 ③ ガソリン・エンジン分解 ④ クラッチ ⑤ M/T・デフ分解	4	①文鎮、キャリパ・ピストン・コンプレッサを作成しタップ、ダイス、ボール盤等の使用方法を習得する。 ②リフト、ジャッキ、基本工具、特殊工具等(四輪と二輪)の使用方法を習得する。	①～⑤
		5	③エンジンの脱着、分解、組付けを行い仕組み作業方法を理解する。 2ストロークエンジン(二輪)と4ストロークエンジンの構造の違いを理解する。	
		6	④M/Tの脱着、クラッチの脱着、分解、組付けを行い仕組み作業方法を理解する。	
		7	⑤M/Tの分解、組付けを行い仕組み作業方法を理解する。 デフアレンシャルの脱着、分解、組付けを行い仕組み作業方法を理解する。	
		8	⑥エンジン冷却装置・潤滑装置の各部品を脱着し仕組みを理解する。 ⑦ステアリング装置の脱着、分解、組付けを行い仕組み作業方法を理解する。 ⑧ホイール・アライメントの測定、調整を行い作業方法を理解する。 ⑨サスペンション脱着、分解、組付けを行い仕組み作業方法を理解する。 ⑩就職試験対策	
	⑥ エンジン冷却装置・潤滑装置 ⑦ ステアリング ⑧ ホイール・アライメント ⑨ サスペンション分解 ⑩ 就職試験対策 ⑪ 点火・燃料装置 ⑫ シャシ電装 ⑬ ブレーキ ⑭ 1年点検 到達度試験	10	⑪就職実技試験に対応できる点検、取替作業等を習得する。	⑥～⑭
		11	⑫エンジン燃料装置の各部品を脱着し仕組み作業方法を理解する。 ⑬パワー・ウインド、ワイパー装置を脱着し仕組み作業方法を理解する。	
		12	⑭ブレーキの脱着、分解、組付けを行い仕組み作業方法を理解する。 ⑮1年点検の点検項目の確認、点検方法を理解し、各自点検順序を工夫し実践に役立つ技術を習得する。	
		1	⑯到達度試験	
		2		
		3		

6 特記事項

--

科 目 名	授業方法	年単位時間	前期・後期	学 科	自動車整備科
企業研修	実習			学 年	一年次
			35	教員	清水 耕児

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	実践的かつ専門的な職業教育の専攻分野の職業に係る勤労観及び継続的な学習意欲等の醸成、専攻分野の実務に必要となる知識、技術及び技能の修得を目的とする
---------	---

2 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	研修成果(報告書)	70 %
	研修活動への取り組み	30 %
		%
		%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容	月	学習のねらい	考査範囲
①各専攻分野において学院及び企業との協議の上で決定する。	4	企業研修において研修学生が専攻分野に関する職業に必要な実践的かつ専門的な能力を修得するための職業教育及び指導等を行う。	①
	5		
	6		
	7		
	8		
	10		
	11		
	12		
	1		
	2		
	3		

6 特記事項

詳細事項に関しては、学院及び企業とで「職業教育に係る事業連携協定書」を締結し決定する。

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
コンピュータ概論	演習		1	1	学 年	一年次
			前期	後期	教 員	加藤 勇
			20	19	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	IT化社会といわれる現代のビジネス社会や日常生活において、覚えておくと便利なWord・Excelの基本操作を理解します。文書作成から基礎関数などを習得し、様々なビジネスシーンでの活用を目指します。
使用教科書・副教材等	Word2019 クイックマスター基礎編／Excel2019 クイックマスター基礎編 情報処理技能検定試験 表計算 模擬問題集
教員実務経験	

2 追試験基準

前期	提出課題の50%未満は追加課題
後期	提出課題の50%未満は追加課題

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	課題評価	70 %	仮評価	%
	月末まとめ課題	20 %		
	学習への取り組み	10 %		
		%		

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第一 学 年 期	前	① オリエンテーション ② Gmailアドレス作成 ③ PC基本操作 ④ Word基本操作 ⑤ Word文書作成 ⑥ Word実技演習	4	1)オンライン授業やWEB就活等で活用できるメールアドレス作成 2)ホームポジションを理解し、タッチタイピングを実践
		5	1)ホームポジションを理解し、タッチタイピングを実践 2)Word画面構成を理解し、基本操作を覚える	
		6	1)ホームポジションを理解し、タッチタイピングを実践 2)文字の入力・編集および文章の編集を理解する	
		7	1)文書の作成 2)表を使った文書の作成 3)文書の印刷(PDF保存・編集)	
		8	1)図形や画像を使った文書の作成 2)総合学習問題	
		10	1)Excel画面構成を理解し、基本操作を覚える基本操作 2)データの編集方法を理解する	
	後	11	1)表の編集 2)ブックの印刷(PDF保存・編集) 3)グラフと図形の作成	
		12	1)ブックの利用と管理 2)関数(基本)を覚える	
		1	1)関数を覚える 2)情報処理技能検定3級模擬問題	
		2	1)関数を覚える 2)情報処理技能検定準2級模擬問題 3)データベース機能の活用方法を習得	
		3	1)情報処理技能検定(表計算)模擬試験	

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学科	自動車整備科
就職実務 I	講義		1	1	学年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教員	辻野 元昭
			20	19	実務経験	無

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	・就職活動、採用に関する書類作成、試験対策を周知。 ・過去求人データ及び、企業研究方法の周知。 ・企業とのマッチング精査、その後希望職種に応募。
使用教科書・副教材等	・これだけは知っておきたい！面接対策&ビジネスマナー(株)ウインネット ・就職試験サポートドリル(実務教育出版)
教員実務経験	

2 追試験基準

前期	定期考查 50%未満
後期	提出課題 50%未満は追加課題

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考查	70 %	仮評価	%
	学習への取り組み	30 %		%
		%		%
		%		%
		%		%

5 学習計画及び評価方法

学習内容		月	学習のねらい	考査範囲
第一期	【面接対策&ビジネスマナー】 就職活動意識付け 企業研究学習 基本的ビジネスマナー 履歴書作成	4	1.個人の能動的意欲を促進させる 自己紹介、希望職種ヒアリング 就職活動前準備 社会人としての基本的ビジネスマナーについて学習	レポート確認テスト
		5	2.企業研究の周知 希望条件を具体化し、それに沿った研究の進め方を周知	
		6	3.履歴書作成 作成方法の周知。完成品の検閲、修正。	
		7	4.採用試験方法の周知及びインターン先選定。 例年の採用試験傾向を周知。併せてインターン先の選定。	
		8		
		10	・インターンシップ 実際の職場環境を体感し、企業研究を更に深める。	
		11	・企業説明会 授業枠を使用して企業を誘致、学内にて説明会を開催。 採用実績のある整備職を募集する企業が主体となるが、業界関係職種なども含めた幅広い情報をレポートに納める。	
		12		
第二期	【就職活動・企業研究】 企業説明会 インターンシップ 採用試験受験 (採用試験対策)	1	・就職試験対策 応募企業の選定後、採用試験の受験を斡旋 並行して採用試験に関する受験対策授業を実施 (面接所作、一般常識などの筆記対策、履歴書作成など)	レポート確認テスト
		2		
		3		

6 特記事項

『面接対策&ビジネスマナー』を使用し、社会人の基本的マナーを前期にて併用学習する。
 『就職試験サポートドリル』を使用し、基礎学力の向上、一般教養を後期にて併用学習する。